Malcolm Bradbury
マルカム・ブラッドベリ

英米文化学会編訳

現代アメリカ小説Ⅱ

The Modern American Novel

【1890年から1945年まで】

彩流社

現代アメリカ小説Ⅱ
1890年から1945年まで

2001年5月31日初版第1刷発行

著者　マルカム・ブラッドベリ

編訳者　英米文化学会

発行者　竹内淳夫

発行所　株式会社彩流社

東京都千代田区富士見2-2-2　郵便番号102-0071
電話03-3234-5931　ファクシミリ03-3234-5932
http://www.sairyuusha.co.jp
e-mail:sairyuusha@mtg.biglobe.ne.jp

組版　有限会社ポイントナイン

印刷　株式会社平河工業社

製本　有限会社三森製本

装幀　銀月堂

ISBN 4-88202-708-9 C0098　落丁本・乱丁本はお取替いたします

Malcolm Bradbury

マルカム・ブラッドベリ

英米文化学会編訳

現代アメリカ小説Ⅱ

The Modern American Novel

【1890年から1945年まで】

江苏工业学院图书馆
藏书章

Ⅱ

彩流社

The Modern American Novel [second edition]
by Malcolm Bradbury
© 1992 by Malcolm Bradbury
Japanese translation rights arranged
with Malcolm Bradbury
c/o Curtis Brown Group Ltd., London
through Tuttle - Mori Agency, Inc., Tokyo

現代文学の二つのグループ――ロシア文学とアメリカ文学――はどうも本当の意味で頂点に達しているようだ。……フランスのモダニズムや未来派のもっとも進んだ熱狂でさえ、いまだにエドガー・アラン・ポーや、ハーマン・メルヴィル、ナサニエル・ホーソーン、ウォルト・ホイットマンらの到達した最高の意識の段階に達していない。ヨーロッパ人はみなその最高の段階に達しようと試みている。ここに挙げたアメリカの大作家たちはまさにその段階に達していた。世界の人々が彼らを怖がっていたのも、そして今も怖がっているのもそのためである。

D・H・ロレンス『アメリカ古典文学の研究』（一九二三年）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

改訂版の序文

そういう訳で、人は一生のうちいつでも、英文学のエクスパートになり、英文学に関してはもうこれ以上知らないことはないという思いに駆られるでしょう。ところが、わからないことが大いにあるのです。すくなくともアメリカ文学にはわからないことがたくさんありそうです。大いに。

ガートルード・スタイン『アメリカにおける講演』（一九三五年）

この改訂版では一八九〇年代から一九九〇年代までのアメリカ小説の百年間を扱っている。つまり、この百年とはモダニズムのごく初期からポストモダニズムの終焉、もしくは衰退期と思われる重要な時期までを指す。この改訂版は初版を大幅に改訂している。最近の重要な小説も正当に評価し、現代小説の方向性に対するわたし自身の意識の変化と批評の重点、さらに批評上の判断に対するわたし自身の変化などを反映しているためである。したがって、テクスト全体を根本的に書き直し、増補し、初版の最後の二章〔この翻訳は出版の都合上、原書を二巻に分けて出版したので、この章は先に出版した訳書『現代アメリカ小説――一九四五年から現代まで』の一章と二章にあたる〕を全体的に書

き直した。さらに、新たに二章を書き加えてごく最近のものまで取り上げ、全体の構成ないしは論旨のバランスと重点を変更した。ポストモダニズムは常に作品の結末を暫定的なものとみなし、その結末を変える傾向があった。それゆえ、わたしがポストモダニズムという思潮自体にこれと同じ原則を適用しても、なんら異論はないように思う。

小説の歴史において百年というのは長い期間である。特に、その時期がまたアメリカの文化や歴史の大変革の時期で、しかも、その変革が単にアメリカ小説それ自体の性格や精神だけでなく、あらゆる国の小説の動向に影響を及ぼしていた時期でもある。実のところ、アメリカ小説がレイトモダンの力と影響力を持つに至るまでの動向が、この書の根幹をなしている。小説というものがかなり遅れてから（実際には違法に）純朴な新大陸アメリカに移入されたということは記憶しておくべきである。というのは、ジェファスンは小説をヨーロッパ的現象であると非難し、ノア・ウェブスターは、危険で悪徳を奨励するものとみなしたからである。一八〇〇年ごろになってやっと、チャールズ・ブロックデン・ブラウンの作品とともに、本当の意味で小説がアメリカ東海岸に根を下ろした。そのころはゴシック形式の小説が流行っていた。そして、小説の形式が一般化したのは一八二〇年代になってからである。「アメリカのウォルター・スコット」（実際はスコット以上であったが）と呼ばれたジェイムズ・フェニモア・クーパーが歴史、社会、さらに、フロンティアを扱うロマンスを開拓した。一八三〇年代にはエドガー・アラン・ポーがアメリカ短編小説を確立した。短編小説は、現在でもなお合衆国では大いに権威があり、重要な文学形式の一つとなっている。しかし、さらに、アメリカで小説が本当の意味で権威を確立したのは、実際にはディケンズ、サッ

カレー、スタンダール、バルザック、さらにゴーゴリ、プーシキンなどの手によって、ヨーロッパで小説が新たに興隆を極めた一八四〇年代と五〇年代になってからである。現在振り返って明らかなように、ナサニエル・ホーソーンの『緋文字』（一八五〇年）とハーマン・メルヴィルの『白鯨』（一八五一年）、またある者に言わせれば、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』（一八五二年）などが、突然アメリカ小説という概念に重要かつ根本的な形式を与えたのである。だが、アメリカ小説はまだおおかたゴシックやロマンス小説にとどまっていた。事実、一八六一年から六五年までの南北戦争の後になって初めて、有力なヨーロッパのリアリズム運動がアメリカの小説家のあいだに導入されたのである。この運動の中心的人物であるマーク・トウェイン、ウィリアム・ディーン・ハウエルズ、ヘンリー・ジェイムズなどは十九世紀末の、この書の出発点までアメリカ小説を支配した人たちであった。

「現代」アメリカ小説は一八九〇年代に始まったにせよ、確固たる自信はついてなかった。当時のアメリカ文学はまだ概して英文学の支流と見られていた。国民文学の伝統という観念はほとんどできあがっていなかった（メルヴィルは一八九〇年代初めにまったく顧りみられることなくこの世を去った）。また、ヘンリー・ジェイムズは、他の同時代の作家や彼の後継者と同様に、自国よりイギリスやヨーロッパの中心地で本格的な芸術活動を行なうことを選んだ。一九二〇年代になって初めて、アンダスン、フィッツジェラルド、ヘミングウェイ、シンクレア・ルイス、フォークナー、ドス・パソスなどの主要な新しい世代の作家たちがアメリカ小説界に強力な力を備えて出現し、同時代の世界の作家たちに強く影響を与えるに至った。一九三〇年には、ルイスがアメリカ作家とし

ては初めてノーベル文学賞を受賞した。このとき受賞を争ったのはセオドア・ドライサーであった。アメリカ小説は今やヨーロッパの読書界と文学界に重大な衝撃を与え始め、たとえば、D・H・ロレンスのようなヨーロッパの同時代の作家の賞賛を勝ち得るようになった。文学の現代化運動にアメリカ人が主要な貢献を果たしていることは明白である。一九五〇年代までに、アメリカ文学が二十世紀文学を支配しているとは言わないまでも、それに影響を及ぼしていることは疑う余地がなかった。ゴア・ヴィダルがかつて述べたように、大国の作家は一般にその本来の値打ち以上に注目されるが、アメリカ小説の影響力は超大国アメリカという事実だけに由来するのではない。アメリカ文学のエネルギー、現代性と歴史に対するこの国の文学の対応力、文学形式の多様性、ヴィジョンやイメージや比喩の力強さなどが、国際的規模で新しい文学や読者を形成してきた。今日、アメリカ小説を無視することはできない。それは私たちみんなに影響を与えるのだから。

アメリカ文学が現代的な権威を獲得するにつれて、批評家が伝統と遺産を構築――実際にはアメリカ文学の聖典（キャノン）に関する最近の論争のなかで、それらを脱構築することが必要になった。このことは一部には、アメリカ的基準と他国の基準との差異、その特殊で、かつ、独自の特徴と見られるものを説明するためであった。そして、後にこの争点はアメリカの伝統が誰の伝統なのかという問題となった。一九五〇年代に一つの超大国の文学がいよいよ「世界文学」になるにつれて、重要な批評書が数多く出版され、その特殊な歴史を説明した。たとえば、リチャード・チェイスの『アメリカ小説とその伝統』（一九五七年）、その自体を一つの小説として説明するレズリー・フィードラーの『アメリカ小説における愛と死』（一九六〇年、改訂版一九六七年）やマリウス・ビューリーの『風

変わりな意匠――アメリカ古典小説における形態』（一九五九年）などである。こうした研究書はアメリカの遺産を特色づけるものを強調していた（ある場合は強調しすぎていた）。すなわち、その特色とはゴシックの伝統の重要性、ヨーロッパ的意味における社会小説の相対的な欠如、自然や孤独の重要性、歴史をプロセスとしてよりも神話とみなす傾向などであった。本書でも繰り返し述べているように、アメリカ小説それ自身の内部でも同じようなプロセスが起こっていて、伝統を構築したり、聖典（キャノン）を変えたり、過去を想像したり、ジャンルの範囲を規定したり、あるいは削除したり、崇高な小説、あるいは民族の伝承の役割を熱望したりしようとする試みが行なわれた。アメリカ小説はいまだにゴシック小説やロマンス小説に執着している（リチャード・ブローティガンは『ホークライン家の怪物』の副題に「ゴシック西部劇」と付けている）。さらに、アメリカ小説はいまだにジャンルを混合したり、組み合わせたりして、創作されている。こうした多くの研究や解釈の中で唯一危険なことは、これらの小説について、特にアメリカ的であったり、いまなおアメリカ的であるものを強調することで、伝統の意味の多くや、アメリカ文学への同時代の影響の多くが、アメリカ内部のみならず外部からも発しているという事実がしばしば無視されている点にある。アメリカ小説は、確かに、アメリカ文化と、実際にはすべてではないにしても、大部分がこれまで作り出されてきたポスト・カルチャーの歴史、物質的状況、意識、哲学的認識法の所産である。しかし、小説は国際的な文学形式であり、特にアメリカ合衆国ではそうである。小説は変わりゆく国際世界における、より広範な創作の歴史の所産であり、それと同時に、外国の影響に特に開かれてきた多文化社会における創作の歴史の所産でもある。したがって、なおいっそう現代的であるといえる。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.

以上の点でこの書では二面的なアプローチを行なっている。すなわち、本書ではアメリカ小説が自国の基礎の上に成り立っているだけでなく、それが世界文学と繋がりを持ち、その影響を受け、世界文学の中で強力な立場にあるということを説明している。

小説の歴史は、長期的視点で見れば、文化の画期的な時代がさまざまな形式となって姿を現わす歴史だと言うことができる。あるいは別の言い方をすれば、小説は世代による審美的変化に対応し、その時代の生活様式と生活の最良の認識方法、表現方法について、内と外から自由自在に追求することである。したがって、小説は、ときにはルポルタージュ風に、ときには心理的に、また、ときにはきわめて写実的に、ときには際立って実験主義的に、もしくは超現実的になる。わたしはこの書を現代小説の全般的な歴史とその形式の推移という点から進めている。つまり、自然主義と印象主義の発達、モダニズムの成長、一九三〇年代における社会派リアリズムと一九五〇代のリベラル・リアリズム回帰への試み、一九六〇年代における新たな「ポストモダニズム」の実験、そして今世紀が終わる今、私たちの眼前で繰り広げているさらに形式を持たない小説の展開などの流れである。さまざまな傾向を眺めて、個々の作家の作品をある程度詳細に見ようと心掛けた。特にわたしが尊敬しているか、あるいは、絶対に重要だと考えている作家からは目を離さなかった。いまや聖典（キャノン）は時代遅れであり、批評家はあれこれ喧（かまびす）しく騒ぎたてているが、すべての芸術的形式には重要な歴史が存在するのである。この書はその変わりゆく重要な歴史を構築する一つの試みである。つまり、アメリカに根づいた固有の文学にとどまらず、モダンやポストモダン、そしてポスト・ポストモダンの小説全般の豊穣さと可能性を私たちが理解するために必要な基本的な試みでもある。

この書の一部は別の所で探究した資料をいくぶん参考にしている。たとえば、ジェイムズ・マクファーレンと共編した『モダニズム一八九〇―一九三〇』（一九七六年、改訂版一九九一年）やハワード・テンパリーと共編した『アメリカ研究入門』（一九八一年、改訂版一九八九年）、リチャード・ルーラントとの共著『ピューリタニズムからポストモダニズムまで――アメリカ文学の歴史』（一九九一年）などである。また、『サタデー・タイムズ』紙や『ニューヨーク・タイムズ』紙、『ワシントン・ポスト』紙や、『インカウンター』誌などに掲載した論文や評論などの一部を参考にしている。

初版の編集作業に対して Catherine Carver に、また、この新版の製作への力添えに対して Christopher Butler, Catherine Clarke, Robert Ritter に大いに感謝している。ここ何年かにわたって、数多くのセミナーや会議で、わたしとともに最近のアメリカ小説について話し合った多くの人々、特に同僚には負うところが多い。たとえば、Guido Almansi, Christopher Bigsby, Dominic Bradbury, Melvyn Bragg, Hans Bertens, Christopher Butler, Marc Chenetier, Jon Cook, Maurice Couturier, Haideh Daragahi, Regis Durand, Raymond Federman, Winfried Fluck, William H. Gass, Ihab and Sally Hassan, Gerhard Hoffmann, Alfred Hornung, Hartwig Isernhagen, Jerome Klinkowitz, Paul Levine, Hermione Lee, David Lodge, Richard Martin, Helen McNeil, Penny Perrick, Sergio Perosa, Janice Price, Jonathan Raban, Richard Ruland, Lorna Sage, Anthony Thwaite, Kristiaan Versluys, Mas'ud Zavarzadeh, Heide Ziegler などの人たちに対して感謝している。また、本文の中で述べてきた

何人かの作家にも感謝している。さらに、イーストアングリア大学が常に最新の研究を強く奨励し、支持してくれる姿勢を示していることに大いに感謝したい。

M. B.

一九九一年、イギリス、ノリッジにて

翻訳にあたって

本書 *The Modern American Novel* (1992) を翻訳するにあたって次のことに配慮した。一つは全体を一冊にまとめるには分量が多すぎるので、第一章から第五章までと、第六章から第九章までをそれぞれ別冊にした。もう一つは、前半部分の作家や作品の批評については、すでにほかにも多くの翻訳書が出版されているので、後半部分から先に出版することにした。その理由は、後半の第九章にはまだ評価の定まらない一九九〇年代の作家や作品に関する著者独特の優れた批評が掲載されているので、まず最初に後半部分から先に出版するほうがよいということになったためである。そこで一九九七年七月に『現代アメリカ小説――一九四五年から現代まで』として出版した。その後翻訳を担当する英米文化学会分科会会員のあいだで検討した結果、前半部分も出版すべきであるという結論を得て、今回『現代アメリカ小説Ⅱ――一八九〇年から一九四五年まで』として出版することにした。

今回の出版にあたっては、各章の各セクションの初めに、その時代に活躍した主要作家名を明記し、かつ、本文中でもこれらの作家が初めて登場した場合に限って作家名をブロック体で示し、読者にわかりやすい構成に変えた。その結果前作よりかなり読みやすくなっていると思う。今後前作についても、いずれ改訂して今回の構成を導入したいと思っている。なお、「主要アメリカ作家解説」「作品年表」「訳者紹介」は今回も前作と同様に巻末に掲載した。

目次

現代アメリカ小説Ⅱ——一八九〇年から一九四五年まで

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.